

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター ネットラボロッツ		
○保護者評価実施期間	令和6年10月10日		～ 令和6年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月17日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	視覚的な支援をすることで子どもが安心して過ごせる	視覚的な支援があると、「理解ができる」「見通しが持てる」「注視ができる」「イメージが付きやすい」「自分で確認ができる」などのことから子どもが安心して過ごすことにつながる。 視覚の提供の仕方を工夫したり、個々によるニーズの違いに合わせて行うようにしている。	職員誰もが必要性や意味を理解しながら、子どもがより安心して、積極的に活動に参加したりすることができるようにと考える。
2	職員集団の中に様々な専門職がいること。連携して支援にあたり、多角的に子どものアセスメントをすることができる	心理師、言語聴覚士、作業療法士、音楽療法士、保育士、社会福祉士などの資格を持った専門職が連携し、子ども一人ひとりの理解、発達段階や特性、社会的背景の理解をしながら支援をしていく。	専門性を高めるとともに、専門性をいかしながらカリキュラムを組んだり活動の充実につなげる。
3	地域の中で子どもの育ちを支えていく。保護者に寄り添った支援を行うとともに、地域の保育所・幼稚園・学校の先生方、医療や福祉関係者、行政の方々と子ども達の成長や支援に重きを置いている。	保護者の方々が子育てを楽しめるようにサポートをし、子どもの成長や進路について一緒に考える。 子どもたちが過ごす園や学校との連携をはかったり、保育所等訪問では子どもが地域で過ごしやすくなるための支援を行っている。必要に応じて医療、福祉、行政その他関係機関と連携しながら支援をし、地域で様々な子ども達が過ごすことについて発信ができる。	教育、福祉関係者と子ども達が地域で生活するために、合理的配慮の理解を一緒に考えたり、障害があっても安心して過ごすための理解を深められるような取り組みをしていきたいと考えている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域に根差した支援の強化	・現地に開所しての歴史が浅く、周知されていないこと ・地域住民の方々にどんな目的でどんなことをする事業所であるか、周知できていないこと ・地域への発信	・地域住民の方々に知っていただく機会の検討 ・地域の方や関係者との信頼関係を築くため、顔の見える関係を意識したり、支援について知っていただく機会を作る
2	・年齢の高い子どもの活動(特に身体運動)をより高めていくための環境づくり	・園庭や室内のスペースが限られているため、活動に制限がある	・目的によってどんな活動がどんな工夫でできるか、アイテムをたくさん持っておくこと ・事業所外でできることも取り入れる
3	・保護者を招く大きな行事など、事業所内で行うことが困難	・事業所内のスペースが限られている	・地域の社会資源を利用する ・行事をグループで分けて行う

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援センター ネットボラロッツ

公表日 令和7年3月17日

利用児童数

28

回収数

22

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	5	0	0	リトミックをする時だけスペースが狭いかなと思います。	限られたスペースなので、目的により部屋を使い分けたり、グループ分けをしたり、施設外での活動を取り入れるようにしています
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	18	3	1	0	他の子に手がかり、走り回っていても対応できずにいるように思う。	基準より多く配置していますが、日によって増減があります。子どもの実態に応じた配置と支援方法や内容の検討を常にしていきたいと考えています
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	1	0	1		視覚的にわかりやすく見通しがつき、活動しやすいような環境づくりと支援に努めたいと思います
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22	0	0	0		清潔で安全に過ごせる環境と、活動がより充実できるようプログラムに合わせて環境を変えるなど工夫するように努めます
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22	0	0	0		一人ひとりの発達段階の把握や特性理解しながら専門的な支援ができるよう、言語聴覚士・作業療法士、音楽療法士と一緒に支援をしています
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20	1	0	1		計画した支援内容をもとに、プログラムを立てています。それを周知していくことにも努めたいと思います
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22	0	0	0	丁寧にアセスメントして頂き、定期的に情報共有する中で作成して頂いています。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21	0	0	1		支援内容の中にそれぞれの支援内容を記載していますが、より丁寧に説明や周知ができるようにしていきたいと思います
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	0	0	2		支援計画を作成し、支援計画に基づいて支援をしています
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	1	0	3	評価する基準がわからない。	季節に応じた行事や、子どもの段階に合わせた取り組みができるように、時期や様子に応じて内容を変更することがあります
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8	2	6	6	幼稚園、保育園等との併行通園も可能な施設と広報誌で周知されている。	並行通所をしているお子さんや、地域の園への移行をしていくお子さんもいます。この施設全体として、子どもが交流する機会を作れらるよう、今後の検討課題です
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21	1	0	0	パンフレット等を頂き、丁寧に説明をして頂きました。	丁寧な説明を心掛けたいと思います
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21	1	0	0		支援計画を提示しながら説明し、必ず配布をしています
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	22	0	0	0		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	22	0	0	0	子どもがいつもと違った時、先生の方から伝えて下さる事も多くうれしいです。通所、降所時にどの職員の方も丁寧に子どもの事を伝えて頂いています。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22	0	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21	0	0	1	親子共々助けられています。相談しやすい環境を整えて頂きありがたいです。	
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17	2	1	2		学習会の開催や保護者が集まってお手伝いをしてもらうなどの機会を設けています。参観などの機会にきょうだい児を預かり、保護者が利用児とゆっくり聞かれるようにしていますが、きょうだい向けのイベントなどは開催できていません。
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	0	0	3		相談LINEを設けたり、急な相談にできるだけ対応をしたいと思っていますが、タイムリーに対応できていないこともあるかと思っています。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21	0	1	0	意思疎通や情報伝達のための配慮に欠けていると感じられている方もいらっしゃることを念頭に置き、足りていないことの把握から努めたいと思います	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19	1	0	2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	1	0	1	一般家庭と違う形での通所ですが、十分に気を使っていたらいいと思います。	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	2	0	2	パンフレットにも丁寧に書かれていたように思います。	各マニュアルは作成し、受付にて閲覧可能にしています
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19	1	0	2	訓練の時間を午前や午後に変えていて良いと思います。	毎月、曜日や想定を変えて訓練を実施しています
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18	2	0	2		安全対策や安全に配慮した支援をしていけるように計画していますが、周知が足りていないことは課題にし、検討していきます
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	2	0	1		できるだけ早い対応と、保護者の方に説明を丁寧にできるようにしたいと思います
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	21	0	0	1		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18	2	1	1	人見知り、場所見知りの強い時期からの通所でしたが、通う中でとって表情がやわらかくなり楽しみにしています。お話できないので、本人はどう感じているのかわからないです。	いつも楽しみにしながら通所できるわけではないと思いますが、子ども自身が楽しいと感じられるように支援をしていきたいと思っています
	29	事業所の支援に満足していますか。	21	1	0	0		満足度はできるだけ聞くようにし、足りていないと感じられることを把握することから取り組みたいと思います

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター ネットボラロッツ				
		公表日 令和7年3月17日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		スペースの確保のため、目的によって部屋の使い分けをしたり、グループでの活動、施設外での活動を実施している	リトミックなど体を動かす活動や親子での行事などスペースが十分とはいえないため、活動や場所を固定せずに最善を考える
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		<input type="radio"/>	基準通りの配置では適切な支援ができないときもあり、活動や子どもの段階によって人員配置を考えたり、専門職との協同をしている	支援の質を高め、環境を整えることによって、職員や子どもが安心して過ごせるようにしていく
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		時間的・空間的な構造化、視覚的支援などを用いて支援を実施している	支援の仕方や合理的配慮について、特性に応じた支援について、より一層職員間で共有し、理解し、実践していく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		感染症対策など衛生面としての清潔の維持刺激が多すぎず、必要なことがわかりやすい環境で安心できるように	安全で過ごしやすい環境でありながらも、子どもの遊びが広がったり必要な経験をしていけるよう職員で共有し、整えていく
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		クラス内の環境だけでは支援の充実が図れないため、遊びの内容や活動によって場所を変えたり、個別支援を行う部屋を設置している	どの場所でもどんな工夫をしながら活動や支援を充実させていくかを柔軟に考えていく
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		支援や業務を行う上で、見直しの必要や改善すべきことがあった時に共有している	今日有するための時間の確保や共有方法の検討
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		評価表以外にアンケートの実施や面談などで意見を出してもらえるようにしている	今回の評価表をもとに改善や検討につなげていく
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		会議の実施やミーティングの機会を設けている	広く意見が出せるような職場環境をめざし、意図的な会議の場の他に雰囲気づくりや風通しの良い職場にすることを誰もが意識する
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>		現時点で第三者による外部評価ができておらず、今後の課題となっている
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		法人内で研修計画を作成し、できるだけ様々な内容について研修ができるようにしている	法人内では足りない研修について考えたり、外部研修なども参加できる機会や体制の確保
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		年度の最初に保護者の方に配布するものに載せている	今後も広く周知するとともに内容についても知っていただけるようにしていくこと
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		モニタリングの実施と専門職との連携をし、標準化されたアセスメントツールを使いながら、個別支援計画に反映させている	職員の一人ひとりが課題分析を抑えたり、支援計画を職員共通の認識にすること
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		子どもの様子や発達段階について職員で共有、検討する機会を設けている	職員での共有の仕方や時間の確保
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		計画は周知し、いつでも確認できるように保管している	計画に沿った支援が具体的にどういったことかという認識の共有
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		標準化されたツールやフォーマルなアセスメントを使用し専門職による評価をし、生活場面で支援者全体が観察による状況の把握と記録を行っている	全体共有の仕方や時間の確保
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		支援計画の中に、本人支援と家族支援は明記している。進路を考えていくことを移行支援と捉え相談をしている	移行支援の記載について、単独の項目で記載していないため、検討が必要
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		プログラム内容によって異なるが、大枠を事前に決めておき、内容についてチームで検討することもある	子どもの実態を共通認識し、それに応じた立案と実施がチームでできるようになること
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		子どもの年齢や発達段階、所属するグループの実態に応じて支援の仕方やプログラムの構成ができるようにしている	職員間で気づきや検討ができること

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの様子や段階に応じて、個別支援の内容や集団での支援の仕方を変えている	個別支援を行った時の様子の共有を保護者や職員間でしていくこと
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝決まった時間に打合せを行い、出席できない職員にも共有できるように記録などで残す	打ち合わせに出席しない職員への徹底
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後毎日ではできていないため、翌朝共有できるようにしている	職員がそろそろ朝に行うが、支援後はできていない、振り返りの機会、時間を確保していくこと
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		必ず記録を残している	記録の上で検証、改善につながるような検討をしていくこと
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に一度モニタリングを実施している	チームでモニタリングをしていくこと
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		当センターに相談支援事業所があり、連携がしやすくなっている。その他で会議がある時にはできるだけ出席するようにしている	他の事業所や関係機関との連携の在り方は今後も課題
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		できる限り顔の見える関係を築けるようにしている	地域で支援ができるように、関係を築きながらいざという時の連携ができること
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		併行利用児や地域の園からの移行、地域の園への移行は年々増えており、そのための支援力を注いでおり、当事業所でも推進したいところである	一人ひとりが地域で生活しているという観点から地域移行を進めようとしており、情報共有や合意形成は今後も課題としたい
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		できるだけ連携し、進学前には特に密に連携できるように努めている	できる限り相互理解を図っていきたくと考えているが、共有の機会や時間の確保、認識の一致などは課題
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		自立支援協議会の参加や、他の事業所から移行してきた子どもの申し送りの際などに連携ができるようにしている	どのように連携していくか、地域支援をどう考えるか、それぞれの認識を一致させたり役割分担をしていくことは今後も課題
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		外部研修への参加は行っているが回数は多くはない	現状の支援で足りないことや、アップデートが必要なこと、第三者からの視点なども考慮し、研修の機会を設けたい
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		参加している	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		現状ではできていない	今後の課題としたい
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時に顔を見ながら話ができるようにしたり、連絡帳の利用、懇談や参観の機会、学習会の開催などを行っている	保護者が知りたい情報や分かち合いたいことをしっかりと伝えられているのかということは常に問うようにしたい
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		学習会の機会を設けたり、話ができるときに必要なことを伝えられたらと考えている	皆さんにどう伝えていくか、情報を欲している人に伝えられているか、必要な人に伝えるためにどうしていくかは課題	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に書類を配布するとともに説明を行っています	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		子どもの意向を聞き取ることが難しいため、保護者の意向を聞くようにしている	子どもがある程度意思を示せるときには、子どもの意向を聞いていくようにすること
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		対面で話す時間を設けて説明し、同意を得ている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的な面談、学習会の開催、相談LINEなどを通して相談できるようにしている。保護者送迎なのでその時に話してくれることもある	話しやすい環境やツールを今後も検討していくこと、構えずに気軽に相談できる体制を職員全体で作っていくこと

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会は作っていないが、月に一回の割合で、保護者が集まる機会は設けている。	きょうだい同士の交流については行っていないが、きょうだい児が小さい場合は一時的に預かって、利用児と保護者がしっかり関わる機会を設けている。そうした機会の頻度を上げていくことを検討
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		できるだけ保護者の様子を職員で確認しあったり、ニーズの把握などしながらタイムリーに対応できるように考えている	相談内容や状況に応じてできるだけ迅速にと考えているが、早く相談時間をとってほしいと思われることもあったのではないかと
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的なおたよりの発行、ネットの利用など、できるだけわかりやすく伝わりやすいようにしている	様々なニーズに合わせて誰もが情報を得られるようにしていくこと
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報について書面で確認するようにしている	職員全体が個人情報の取り扱いに留意し続けること
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		年齢が低い子どもを支援対象にすることが多いが、本人が要求を出せるように取り組んでいる視覚的な支援、可視化をしていることが多い	日本語を母語としない方、読み書きが困難な方など、できるだけ子どもや保護者一人ひとりの様々な状況、ニーズに合わせていくことは今後も課題
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			地域住民の方と交流する機会は、現在持てておらず、今後の課題
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		常時、受付に置いており、いつでも閲覧できるようにしている 研修や訓練を計画して実施している	こうしたことを知らない方が多いと思われるようにしている
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを作成している 毎月1回避難訓練を実施している	BCP内容は、常に見直しが必要であること 訓練も様々な想定により対応が違ふことを考えながら実施していくこと
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		服薬、予防接種について書類に残している	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーについての事前聞き取りをし、食品については医師の確認をとっている	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		作成している	内容の精査が必要 防犯についての取り組みを検討中
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		作成している	保護者への周知
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		相当するものが起こった時は記録に残し、再発防止の検討するとともにその内容を周知している	ヒヤリハットに相当するかどうかの判断に差が開きすぎないようにすること
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し研修計画を立て、必ず研修を行うようにしている	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		子どもにより異なるが、必要な子どもについて個別支援計画に記載するようにしている		